



東京島しょ郷友連合会だより

15号

【発行者】東京島嶼郷友連合会
 【発行・編集責任者】大澤博紹
 【制作・印刷】オフィスYK

しよしゅん れいげつ 初春の今月にして
 きよ かぜやわ 気淑く風和らぎ
 うめ さようぜん こ ひら 梅は鏡前の粉を披く
 らん はいご こう かお 蘭は珮後の香を薫らす
 万葉集巻第五 梅花

令和二年 ふるさとに思いを寄せる

新年あけましておめでとうございます。新しい年が皆様にとって希望に満ちた年となります。まずようお祈り致しますとともに、島嶼郷友連合会活動に一層のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、自然災害の多発した年でありました。これまで経験したことがない、猛烈な台風十五号・十九号は国民生活に甚大な被害をもたらしました。



島嶼郷友連合会会長
大澤博紹

私たちの故郷東京諸島、大島・利島・新島・神津島・三宅島・御蔵島・八丈島でも住宅・学校、道路やビニールハウス、港湾、農林水産業などに大きな被害を受けました。改めて地球温暖化の影響を認識させられました。被災された皆様には心からお見舞い申し上げ、一刻も早い復旧を願うものであります。

さて、本年度の連合会活動の重点目標はホームページの開設です。掲載内容については、各島の町村役場、観光協会、東京都振興公社等と情報交換を図りながら調整し、多くの人に東京諸島の伝統文化・島の歴史・島の自然の美しさを広く発信していきたいと思っております。

次に、法人化を目指してまいります。財政基盤を確立するためにいろいろな点でメリットがあります。

今年七月には、いよいよ待ちに待った東京オリンピック・パラリンピックの幕開けです。すぐそこに「ニッポン頑張れ」のこだまが聞こえてくるようです。

五十六年ぶりの東京開催は世界の友情と連帯を育て平和な社会の増進に貢献することでしょう。終わりにあたり、当会では台風災害義援金の募金を行っております。皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。皆様のご健勝とご多幸を祈念してご挨拶と致します。

《ごあいさつ》

ホームページを開設しました

会長 大澤博紹
<https://www.tokyo-islands.jp>

■目的
東京の島々に関心を寄せる島嶼ファンの方々に、離島文化並びに、島嶼郷友連合会活動を広く知ってもらいたいとの思いで、ホームページを開設しました。

■概要
会長挨拶
事業計画と重点課題
組織体制
会則

■四季折々の美しい自然
■歴史と文化
■埋もれた歴史発掘
■東京諸島ゆかりの人々
■連合会だよりバックNo. 八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五号

■台風災害のお見舞いと募金活動
■イベント情報
■企業広告
■他とのリンク
島しょ振興公社
小笠原協会
東海汽船
町村役場
観光協会
フェイスブックと連動

台風災害のお見舞いと募金活動

会長 大澤博紹

台風十五号が伊豆諸島を直撃し、特に大島、新島では多くの住宅が被災し、大島、新島、利島、式根島、神津島では、農林水産業にも甚大な影響をもたらしました。

さらに、被災地が復旧に追われている最中、十月に再び巨大な十九号と、その後の大雨が被災地に追い打ちをかけた。被災されたみな様には心からお見舞いを申し上げます。

東京島嶼郷友連合会では、被災地の一日も早い復旧を願い、募金活動を行っています。

是非、多くの方々より、災害義援金のご協力をいただきたくお願い申し上げます。

●送金先
みずほ銀行 築地支店
口座番号
(普) 2827423
口座名義
東京島嶼郷友連合会

島の思い出

大島会会長 秋廣 道郎

最近日本は台風被害や集中豪雨災害が絶えませんが、心痛む日が続いています。台風15号は、大島では、屋根が飛び、お店を廃業せざるを得ない被害が多く発生しました。

台風といえば、それに備えて、雨戸を板で打ち付ける準備をしていたことを思い出します。アイオン台風のとき、打ち付けても雨戸が吹き飛ばされそうになり、深夜、母（ひろ）兄（明彦・亮治）姉（恵子）の5人で必死に戸を押さえた記憶があります。このアイオン台風は、昭和二十三年九月十六日に房総半島に上陸した最大風速46.7m/hの大型台風で、死者五十二名、行方不明者三二六名、負傷者一、九五六名という甚大な被害をもたらしました。私は、この時は、4歳9か月でしたが、その年の八月十五日に父（博）を亡くしており、記憶に深く残っていたのです。この時の家族で協力して家を守ったこと

は、家族の暖かい絆の記憶として残っています。

島の生活は災害と切り離せません。大島の最大の災害は、三原山の噴火です。昭和二十五年から二十六年にも大きな噴火がありました。私が7歳の頃で、夜の噴火を見ようと、元町の旅館椿園に、兄（亮治）姉（恵子）、従姉妹（万里子さん・美子さん）と一緒に泊まり、夜、外輪山のお茶屋から内輪山に入り、すごい花火のような噴火を見ました。その時、流れてくる溶岩流を目の前で見た鮮烈な記憶があります。三原山の噴火は、御神火様と崇められ、災害は、同時に多



くの観光客を引き寄せる恩恵を島にもたらしたのです。

私にとって大きな出来事は、昭和二十七年の日航機木星号の墜落事故でした。その報を聞くと、私は、当時子分の史郎ちゃん・六ちゃんを引き連れ、散らばったお札やダイヤモンドを拾おうと、普通は2時間もかかる山道を三十分で登ったのです。現場は、既に警察官により縄が張られ、焼けた遺体が転がっていました。お札やダイヤモンドは残っている訳はないのに、あると信じた親分の私は浅はかでした。死後硬直して手をまっすぐ上げたスチュワードさんの姿はいつまでも心に残っています。私が小学校3年生の時でした。

ふるさと利島に

思いを寄せる日

利島会代表幹事 梅田 勉

東京諸島においても、少子高齢化による人口減少が急速に進んでいくと見込まれています。

そのため、どの島においても活力を取り戻し、安心して定住できる島おこしに懸命に取り組んでいます。

利島では、失われつつある郷土の文化芸能を見直し、次の時代に継承していくため、昨年、伝統行事を復活のため、村民が島の歴史を振り返り、利島の良さを見つめ直し、親睦を深めようと、利島村伝統文化芸能実行委員会が中心となって「ふるさと利島に思いを寄せる日」を三月に設けました。子供たちから高齢の方まで交流会館に大勢集まりました。

餅つき

その昔、利島では年末、各家で臼と杵で餅をつき、大きな台の上で餅もみをして新年の準備をしました。しかしながら、今ではその光景を見ること



は珍しくなっています。村のみなさんがお手伝いをし、臼と杵を使い子供たちが嬉々として餅つきを体験しました。

ゴイワイツエ(御祝い杖)

小正月の行事で、健康な毎日が過ごせるようにと、子供たちが神社の玉石を「健康な一年でありますように」と願いを込めて、杖の周りについた折り紙を神社の玉石に叩いて落とす行事がありました。いつの頃からか見られなくなっていました。子供たちは村の方たちの指導のもとで、熱心に取り組みました。

綱引きと利島木遣り歌

村の年長者の先導で、



綱を前後に動かして木遣り歌を歌いました。いろいろな祝の席で歌われる利島の伝統的な歌です。練習を重ね、合の手、かけ声の入れ方を習い、上手に歌えるようになりました。

他にも、「利島小唄」や「かぞえ歌」などの踊りがあります。文化芸能実行委員会では、次の世代に受け継がれていきたいと話し合っています。（利島教育委員会提供資料と写真を随時引用した）

令和元年度

東京島嶼郷友連合会の活動報告
並びに定期総会開催のお知らせ

理事長 梅田 勉

明けておめでとう
ございます。

島嶼郷友連合会を応援
していただいているみな
様方には、日頃のご支援
とご協力で厚く御礼を申
し上げます。生まれ育つ
た島を離れ、都会で暮ら
す私たちですが、東京諸
島出身者をつなぐかけ橋
として、また、ふるさと
振興のかけ橋になりたい
との思いで、連合会活動
を続けています。

令和元年度は次の重点
課題を目標に、専門部、
理事会を中心に活動して
います。

一、連合会活動の目的を
より具体化する。

四季折々の東京諸島の
美しい自然の中で、先人
から受け継がれ、島々に
根付いてきた離島文化を
掘り起こし、その啓蒙活
動を行うことが島嶼振興
の架け橋になるの思い
から、活動のテーマを「ふ
るさとに思いを寄せる」

としました。

二、連合会だよりの充実
東京諸島出身者の懐かし
い島の思い出等も掲載
し、生まれ育った故郷を
ピリアルする工夫を試
みています。

三、ホームページの開設

東京の島々に関心を寄
せる島嶼ファンの方々
も、東京諸島の輪を広げ
るため、ホームページを
開設しました。

四、募金活動

台風十五号が伊豆諸島を
直撃し、甚大な被害をも
たらしました。

島嶼郷友連合会では各島
の復旧を願い、募金活動
を行っています。

五、旅行会活動一時中止

台風による甚大な被災
状況に鑑み、十一月に予
定していた、草津旅行を
中止しました。

六、法人化の推進

社会的信用力の向上を図
るため、任意団体から、
一般社団法人化移行に向

け具体的検討に着手しま
した。

七、各島郷友会への支援
各島郷友会活動活性化
の一助として、イベント
開催時に、今年度は連合
会から助成金拠出を試行
しています。

八、全島加入の推進

休会中の島への連合会
だよりの発送と情報収
集、さらに小笠原協会主
催セミナーへの参加を通
じて、小笠原諸島加入の
促進を続けています。

九、総会のお知らせ

・定期総会
日時 令和二年四月二十
六日(日) 十二時

場所 アルカディア市ヶ
谷駅から徒歩五分)

・懇親会

総会後、恒例の懇親会を
行います。郷土芸能も披
露する予定です。

東京諸島にご縁のある方
大歓迎です。交流の場と
して是非ご活用をお勧め
します。

建物解体業・中古車販売・サッシ、リフォーム業

ジョイフルセンター 代表 大澤 康 兼

〒100-1511 東京都八丈島八丈町三根 1957-1 TEL 04996-2-2126

不動産のパートナー

OKIYAMA オキヤマ住販(株)

東京都知事(9)第45546号

代表取締役 沖山 正 俊

〒165-0034

東京都中野区大和町2丁目3番10号

TEL 03-3310-0026

FAX 03-3310-3882

E-mail info@okiju.co.jp

石工事の施工おまかせ下さい!!

株式会社 ホーヨー

代表取締役 清水 邦 洋

【本 社】 埼玉県富士見市水子4718-1
〒354-0011 本社 ☎ 0120-660-089 FAX 049-255-7068
URL http://www.ishio-hoyo.co.jp/

弊社取扱優良霊園のご紹介

【埼玉県】

- 富士見メモリアルガーデン
- 大宮霊園
- 和光聖地霊苑
- 仏子聖地霊園

【神奈川県】

- メモリアルサンステージ
- 横浜セントヒル霊園
- 横浜浄苑ふれあいの社

その他、多数の霊園を取り扱っております。

- 都立霊園・青山・谷中・多摩・八柱・小平・八王子、各霊園取扱い

故郷を偲ぶ

～私の中に流れていること～

神津島郷友会会長 山田 恵照

流人塚

四百年余途絶えることなく、白砂を敷き香華を手向けて守り続けている。流人の事が世に出たのは昭和四十年ごろ、山下彦一郎先生(私も兄も中学校で教わっている。)の研究発表がきっかけだった。慶応二年生まれの祖母から、昔の話をきくと聞いておけばよかったと後悔している。

島の唄(民謡・芸能)
神津島は豊かな自然に恵まれた島である。墓に供花が絶えず「神が集う島」と訪れる人は言う。一方唄の方は家の建前も呑んで唄い祝うこともなく形だけになったと棟梁の鈴木さんは寂しそうに話している。

神津島の唄は漁業が活気に満ちた時代の唄が特に多い。かつお釣り漁は文化・文政時代が黄金時代であったという。かつお節は品質も良く江戸將軍の献上品でもあった。島には打楽器の締め太鼓のみで、歌も踊りも手拍子で始まり、手拍子で



流人墓地「オタア・ジュリアの墓石」

流人墓地「オタア・ジュリアの墓石」
島の唄を心配し、当時の村長石野田富弘、教育長清水正身、その父の清水正平、島唄の名人であった石田正一さん達が中心になって「神津島の民謡集」としてCD化した。東京の民謡を歌い継ぐ会の尺八や三味線の伴奏付きと地元連による手拍子による二編が収録されている。

島の唄を心配し、当時の村長石野田富弘、教育長清水正身、その父の清水正平、島唄の名人であった石田正一さん達が中心になって「神津島の民謡集」としてCD化した。東京の民謡を歌い継ぐ会の尺八や三味線の伴奏付きと地元連による手拍子による二編が収録されている。

私も子どもの頃「合(ごう)」での大漁祝いの宴会は歌と踊りで始まり若い衆が色とりどりの襷(たすき)鉢巻を付けて元氣瀧刺の動きを遠目で眺めいったものだ。その姿は今でも臉に浮かぶ。

物忌奈命例大祭(ものいみなことれいたいさい)で行われる鯉釣の神事が七月三十一日〜八月二日、行われる。この鯉釣り神事は国の重要無形文化財に指定されている。

私が出た高校へ行ったのも村の財政の中から奨学金を貸与して頂いたお陰である。

定年後は帰島することを考えていたのだが夢は叶わずじまいになりそうだった。ささやかだが、日本文学全集や世界文学、日本

文学の初版本の復刻版などを図書館に贈呈した。私たちが育った頃は読みたくても本が無かった時代でしたから。

敗戦後七十五年は平和だから今がある。あの戦争は二度と体験しない、させないために憲法を守り、民主主義や平和が続くよう見守っていきたい。

ふるさとを紡ぐ

噴火・不屈の精神・火伏の獅子舞

三宅島郷友会会長 高松 宏惟

私は、昭和三十八年四月に上京したため三宅島には十八年しか在住していません。ふるさとに思いを寄せることが出来ていないかもしれぬ。

小学校の同級会を長年続けているが、思い出を紡いでいたのだと思う。夏休みは一日海に浸かって、キュウリやトマトを海辺に冷やし、貝や魚を採りお昼ご飯代わりにしたり、校庭で暗くなるまでかくれんぼや縄跳びをして遊んでいた良い思い出がいっぱいある。安全で平和で特に伊ヶ谷は静かな地区だったと思う。

次に噴火が想い出と言えなくもない。二十世紀以降昭和十五年、昭和三十七年、昭和五十八年、平成十二年と四回の噴火が発生している。私は昭和三十七年の噴火しか体験していないが当時は高校生だった。実家で電話交換機の前に座って噴火が進行するなか、刻々と入電する電話交換に心懸っていた思い出がある。

は好ましくないというところで、中止としたところ、火事が多く恐怖からまた獅子舞を復活させたといわれている。獅子舞の内容は、五つの段階に分かれている。

一、神楽
獅子舞が自ら御幣を振ってあたりを清める。

一、打ち込み
四股は鳴り響く太鼓に連れて踊り出す。

一、かまくら
あたりを見極め静かに座って身づくろいをして眠る。

一、うた
二上がりの歌声につれて「おかめとごころけ」出てきて楽しく踊る。(これは獅子の夢である)

一、打ち込み
獅子は眠りから覚めて再び踊り狂う。

「三宅島史」(三宅島史編集委員会編集)より
おわりに記憶は消える。記録は残る。と言うが、噴火の記憶はいつまでも消えることはないと思う。今を三宅島で元気に暮らしている小・中・高の皆さんが元気にふるさと三宅島を紡いでいくと頂きたいと念願している。

歴史発掘・八丈島

八丈島郷友会
菊池 恭子

すばらしい黄八丈の伝統工芸を知ろう！

絹づれの音、光沢きらびやかな布地と、表現豊かな黄八丈の魅力を語ってみたいと思います。

文献によると、黄八丈の起源は不明だが、室町時代には貢絹していたと言う。江戸時代になって更に盛んになり、年貢と一般向けに分かれ、原料の糸など八丈産では不足となり、他からも移入される。黄八丈の織り手は、女性を中心に地位も高かった。荒れた手では糸がからみついたり、汚れるのでなめらかな手が大事で、織物中心の生活だった為、八丈島の女性には美人が多いと云われた所以でもある。黄八丈と云う名稱は島内では戦後からで、旧くは丹後とよばれていた。今でも丹後とよぶ島内のお年寄りが多い。現在でも一貫して糸を草木から染め、織物生産している山下めゆ工房は、個人経営として知られ、手織りは、特に檜立の生産量が多い。織り方には平織と綾織りがあり、平織りは平面で薄

く、綾織りはあやに交互に織り少し厚目となる。他にかつべた織り(厚地で昔は帯として織られる)があるが、糸も太く材料も手間もかかるとこの技術は後継者もなく、現在では傾聴で語り継がれていると言う。後に「かつべた織り」は国の「無形文化財」として選択され、「かつべた織り技術者玉置びん」が工芸者として選択された。

極めて原始的な形の機械で織る為、文様織りの複雑な手間などから伝承者が少なく、唯一の伝承者であった。玉置びん氏は明治三十年生まれで八十三歳で没している。昔は幅広の物(帯)を織っていたが、明治末期には幅の狭い(たて巻き?)物や紐状の物しか織らず、ご本人も自家用に細帯や紐を少量織り、注文品だけを織っていた。ちなみに現在でも着用用帯として、帯専

門に私のめい(末吉在住)も自宅で織っている。昔と変わらず「尺二寸」で計るのも興味深い。おやり糸(八寸)を横糸に使い、綾織りで織る。今は昔より幅も広く丈も長い。一本仕上げるのに五日程かかる。

「おやり糸」で思い出すのが、終戦後疎開先から八丈島に移住して来た春先の事、何処の家も養蚕作業に忙しく、祖母達が大きな糸巻きをまわしながら、片手でまゆから糸を出しからめていたのが今思えば「おやり糸」だったのだ。「かつべた織り」も現在の帯も、「おやり糸」を用いている所に伝統工芸のつながりがあり感動する。未経験者が語る黄八丈工芸は心もとないが、昔は皇室にも献上、今も「銀座黄八丈祭り」では、行列で黄八丈を着て練り歩くなど、伝統を誇りに思うものである。



黄八丈をお召の沖山会長

利島村役場協賛 バーベキュー大会で今年も 利島の輪が広がりました

利島会
事務局長 前田 清

九月八日、台風十五号が伊豆諸島を直撃し、各島に甚大な被害を与えました。

被災されたみな様には心からお見舞い申し上げます。

利島では椿林が大きな影響を受け、特産品の椿油の収穫に甚大な被害が出ました。その後も台風の発生が続き、天気が大変心配でしたが、十月六日(日)は願ってもないバーベキュー日和になりました。

会場は「つばきさくゆり伊豆利島」の、のぼり旗がはためき、利島出身者、利島ファン、島嶼郷友連合会からの大勢の友情参加で盛り上がりま

した。 たかべ、さざえ、くさや、明日葉、磯もの、赤飯、島の懐かしい食材をみなさん喜んでくれました。利島のさくゆり焼酎、そして差し入れのワイン、ビールでの乾杯の声がそこかしこの席から上がり

ました。

ギター演奏に乗って、利島音頭、利島小中学校校歌はなんとも懐かしく、みんな島の光景を思い浮かべながら合唱しました。他の島から参加していただいた伊豆諸島のみなさん、利島会の応援に貴重な



一日をご提供いただきありがとうございました。また、たくさんの寄付もありがとうございました。利島からは、株式会社共栄建設、代表取締役渡辺和男様から、今年も寄付をお寄せいただきました。ありがとうございました。

来年もこの会場が大勢の利島出身者と利島ファンが集えるよう、これからまた一年後に向けて、利島会の活動が始まります。



大島の嬉しい話題 祝人間国宝『竹本葵太夫』

大島会 河野秀夫



島に帰ると「広報おしま」によく目を通します。島の状況や旬な話題が簡潔に掲載されていて、私の貴重な情報源となっています。

因みに東京ではもちろん「東京七島新聞」を隅々まで読んでいます。

その広報誌と七島新聞で、元町出身の竹本葵太夫(本名柳瀬信吾)さんが人間国宝(重要無形文化財各個認定)に選出されたことを知った。努力と研鑽の快挙である。歌舞伎音楽竹本の義太夫節の第一人者だという。

歌舞伎俳優が気持ちよく演じられるよう、良く通る洪い声で情緒豊かに語るそうである。その経歴をみると、昭和三十五年に土産店「くぼいち」の

次男として生まれ、地元吉谷神社正月祭の神子を二度経験しています。中学二年の時に東京の親戚に頼んで歌舞伎座に連れて行ってもらい、舞台右側の竹本の熱演に興味をもち、そして大島高校在学中に竹本越道師に入門し、今年で初舞台から四十年が経ったそうです。

竹本さんは七月の記者会見で「この世界で四十年など大したことでございませぬ。まだ還暦前で心身ともに健康です。『後進とともに前進』を目標に、日々たゆみなく精進して、早くこの認定に相応しい実演家になりたい。」と語っています。

また広報誌の中でも「私の仕事は二十五日間の公演中は休めません。昔から親の死に目に会えない覚悟でいなさい、と言われ休みが取れると帰省するようにしています。大島町には直接関係ない仕事ですが、今後とも精進を重ねてきちんと

した実業家になり、皆様のご期待に報いたいと思います。」と町民にメッセージを発信しています。周りには年上の師匠方もいる歌舞伎界の中で、五十八歳で人間国宝になった竹本さん、これからご苦労も多いと思います。が、舞台に、後継者の指導に、島の心意気でますますご活躍されることを願ってやみませぬ。

【関連情報】

九月の台風十五号、十月の十九号で竹本さんの実家である「くぼいち」も壁や屋根が飛ばされ大きな損壊を受けました。元町だけでなく島南部の差木地、上ノ山などで住宅等が全半壊し、日常生活に大きな支障をきたしました。

改めて被災された島の皆様に心からお見舞い申し上げます。東京島嶼郷友連合会の会員として、島の為に支援出来る事があれば、お手伝いしたいと言う思いは皆同じだと思います。

役場の皆さん、東京でのイベントボランティアなど気軽に連絡いただければお手伝いさせていただきます。

大島医療センター

伊豆大島唯一の有床診療所。公設民営の医療機関です。プライマリーケアから2次救急まで、島民の皆様の健康を守り、心から信頼される医療機関を目指し日夜努力しております。

大島町は伊豆七島最大の島で人口約7,600人、風光明媚な島です。海は太平洋の大海原、陸に活火山として有名な三原山、空に伊豆半島をシルエットに沈む夕日、夏の夜空には天の川、冬の夜空には煌く様な満天の星が望めます。また、波浮の港に代表されるように歌人の集う歴史ある島でもあります。

しかしながら、高齢者率はすでに30%を超え、少子高齢化の進む島でもあります。当センターは、病床数19の有床診療所ではありますが、現在、2次救急医療機関、労災指定診療所、生活保護指定医療機関などの指定を受けて運営しております。夜間の救急患者様にも対応できるよう、24時間体制をしいています。

内科・外科・整形外科・産婦人科・小児科の常勤医師、耳鼻咽喉科・皮膚科・心療内科・眼科の非常勤医師、そしてコメディカルスタッフ一同、離島医療の先駆けになれるよう努力してまいります。



1. 人々が安心して働ける企業 2. 島の発展に奉仕する企業を目指しております「社訓」より

三宅島建設工業(株)

【本社】 〒100-1103 東京都三宅島三宅村伊ヶ谷 333

電話 04994-2-0163 FAX04994-2-1137

【東京支店】 〒105-0012 東京都港区芝大門 2-5-1 アルテビル芝大門

電話 03-3459-8086 FAX 03-3435-9687

【出張所】 〒100-1301 東京都御蔵島村

電話 04994-8-2229 FAX 04994-8-2323

さくゆり焼酎
 幻の焼酎



http://www.利島さくゆり.tokyo/

令和初春

農業法人
利島ふあーむ株式会社
 代表取締役 **前田 清**

〒100-0003 東京都利島村8番地
 Tel&Fax: 04992-9-0160
 E-Mail: toshima@toshiba-farm.com



<139-凛>
<麗>
<華>
<さくゆりの雫>

伊豆七島 建設業協同組合

事務局

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-4-4 富士ビル 7階
TEL:03-3436-3636 FAX:03-3436-4730

職員を募集しています！
 総務部までお電話かメールでご連絡ください。
 採用情報等は当組合ホームページにも掲載しております。



七島信用組合

〈本部総務部〉TEL.04992-2-1661
 Mail:shichito@hyper.ocn.ne.jp

店名	住所	電話番号			
本店	大島町元町 4-1-3	04992-2-0777	神津島支店	神津島村 1448-5	04992-8-0111
東京支店	港区芝 3-20-5	03-6436-2761	三宅島支店	三宅村神着 239-1	04994-2-0081
新島支店	新島村本村 6-8-9	04992-5-0661	八丈島支店	八丈町三根 1929	04996-2-1201
			小笠原支店	小笠原村父島字東町	04998-2-7410

おかげさまで130周年 2020年夏、新造船就航へ



新大型客船3代目「さるびあ丸」



☀️ 東京諸島で唯一のローカル紙

毎月8日・18日・28日発行

東京七島新聞

東京都島嶼町村会・東京都島嶼町村議会議長会指定広報紙

発行所 東京七島新聞社
〒105-0022

東京都港区海岸 1-4-15 島嶼会館 2F
TEL 03-6459-0292 FAX 03-6459-0094

E-mail sinp@gol.com

郵便振替口座 00160-9-99828
(購読料 1ヵ月 900円)

東京諸島向け広告&PR

Facebook 開設!



<https://www.facebook.com/tokyo7i>

広告とPRは東京七島新聞をご利用ください。

購読と広告の申し込み先

本社	TEL 03 (6459) 0292
大島支局	TEL 04992 (2) 3540 (2) 1102 (4) 0064
新島通信部	TEL 04992 (5) 1323
式根島通信部	TEL 04992 (7) 0260
神津島通信員	TEL 04992 (8) 1047
三宅島支局 営業部	TEL 04994 (2) 0051
編集部	TEL 04994 (2) 0715
八丈島通信局	TEL 04996 (7) 0014

編集後記

二〇一九年後半は気候変動の大変な時期に遭遇、予定が狂うばかりでした。台風の被害の記事ばかりで、都会に暮らす我らはただただ傍観するのみです。

島嶼の為になればと、少しの動きでとの思い、なんの力になれない身を忸怩たる思いでいるだけです。

さて、思う気持ちを切り替えて、皆様の発信する情報活動報告等、今後、郷友会だよりがより面白くなるよう、又広がるための方策を考えて、努力を続けて行きたく思います。郷友会、だよりの発信は内地に暮らす島嶼の架け橋となることを願うのみです。

二〇二〇年の皆様のご活躍を祈念いたします。

編集委員

清水 邦洋

大澤 博紹(八丈島)

梅田 勉(利島)

山口 勝子(大島)

清水 邦洋(神津島)

高松 宏惟(三宅島)